

題 目 不公正な提案に対する反応に評判が及ぼす効果の検討

氏 名 篠原真里亜

指導教員 高橋伸幸

理不尽な扱いに対する反応には、受け入れる・反撃する・抵抗するなど様々な行動が考えられる。その中でも、抵抗は自分の利益を守る行動であることから、正当な行為であり、行動するハードルも低いように思われる。しかし、理不尽な扱いに抵抗さえしないという例がたびたび見られることから、抵抗しない要因を明らかにすることを目的とした。本研究は、理不尽に抵抗しない要因として考えられる様々な可能性の中から、悪評判を懸念することが抵抗の阻害要因になるのではないかと予測した。そこで、理不尽な扱いに対して抵抗するか否かには評判が影響しているという仮説を立て、仮説から悪評判を懸念することが理不尽な扱いに対する抵抗の阻害要因になると予測した。また、悪評判を懸念することが抵抗の阻害要因となっていた場合、自衛行為であるはずの抵抗さえできないのは、悪評判を得てしまう可能性を過大視しており、それにより多元的無知が生じているのではないかと予測した。本実験では、理不尽な扱いに対する反応の研究で数多く用いられてきた最後通牒ゲームを含む実験を行った。従来の最後通牒ゲームは二者間で完結しており、不公正な提案を拒否する行動は「二者罰」と見られていたので、理不尽な扱いに対する「抵抗」において評判が影響するかどうかを検討するために、まず分け手1人に対して受け手3人という最後通牒ゲームを行い、その後受け手同士で評判をつけ合うという、評判を気にしやすい状況を設定した。さらに評判をつけ合ったあとに、評判のみが分かる匿名状況でギビング・ゲームを行うことで、最後通牒ゲームにおける拒否行動が抵抗を意味するデザインの実験を行った。結果として、悪評判を懸念することが理不尽な扱いに対する抵抗の阻害要因になるという予測は支持されなかった。またそれに伴い、悪評判を過大視していないこと・多元的無知は生じておらず評判の気にしやすさで抵抗率は低下しないという結果も得られた。しかし、良い評判を得ることや相互作用の相手として選ばれることを期待するという動機に関しては、評判が気にならない状況よりも評判を気にしやすい状況の方が動機になり得るという可能性が示された。このことから、評判の影響が全くなかったとは言えず、評判の影響があるかどうかについて明確な結論を下すことはできなかった。